

令和7年度 山形県立米沢東高等学校 学校評価

○ 校訓・教育精神

修 誠

「修誠」を校訓として、次の陶冶に努めることをもって教育精神とする。
◇ 美しい品性 ◇ 高い知性 ◇ 篤い至誠

○ 教育目標

- 1 主体的に学び、未来を創造できる人を育てる。
- 2 美しい品性を備え、真理と文化を愛する人を育てる。
- 3 高い知性と健康な身体をもち、自立できる人を育てる。
- 4 至誠と責任を重んじ、社会に貢献できる人を育てる。

○ 目指す学校像

- 1 「修誠」の精神を継承し、人間性を豊かに育む学校
- 2 自立した学習者として、生徒が主体的に学び、高め合う学校
- 3 進学単位制の特色を生かし、一人一人の夢を達成できる学校
- 4 高い志と広い視野を持ち、地域に貢献する学校

◎特に成果が見られた取組 ○成果が見られた取組 △さらに取り組む必要がある課題

重点目標	具体的方策	達成状況と今後の課題 (自己評価 A:達成/B:概ね達成/C:やや不十分/D:不十分)	評価	学校関係者評価
1 学力の三要素のバランスがとれた学力およびリーディングスキルの育成	<ol style="list-style-type: none"> ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ② 学校教育全体での指導を通じた思考力・判断力・表現力の育成 ③ 高い知性や豊かな人間性を磨くための読書の推進 	<p>○授業研究週間等での情報共有と共通認識の醸成 ○授業評価アンケートを受け、授業内容・評価方法についての教科会での議論</p> <p>○生成AIの研修の実施、授業への還元 △授業と家庭学習のバランス ○平日講習や二次講習の実施 ◎学校行事における企画力・行動力・リーダーシップの発揮</p> <p>○図書館の環境・蔵書整備 △図書館活用・貸出冊数の増加</p>	A	<p>◎研修体制がとてよい。相互にみて褒めることを継続して、活気ある学校に。</p> <p>○生成AIはプロンプトの共有で業務を削減できる。今後もぜひ活用を。AIの嘘を見抜く教育も必要である。</p> <p>○アウトプットも含めて、学びを生きる力へと変換を。意欲のある生徒は伸びていく。</p>
2 自ら考え主体的に行動できる生徒の育成	<ol style="list-style-type: none"> ① 自主的・自律的な生活態度と公共心の育成 ② 自他を尊重し、お互いが高め合う集団づくり ③ 自治的・創造的な生徒会活動と自発的な参加による部活動の持続可能な運営 	<p>◎生徒会執行部を中心とした学校行事への主体的な取組み ◎全校生の意見を反映させた行事運営</p> <p>◎組織的ないじめ防止 ○チーム体制での個・全体に応じた指導</p> <p>○生徒の自主的な部活動参加 △スマートフォン使用ルールの徹底 △自転車乗車時のヘルメット着用</p>	A	<p>◎学校生活への満足度が高いのはすばらしい。日々の努力の結果である。</p> <p>○数値にあらわれない生徒の声を拾っていくのは、とても大事なこと。</p> <p>△マナーについて納得感のある取り組みをすることと賛同する。道路交通法の改正や新しいルール作りの際に生徒が参画する工夫を。</p>
3 これからを生きぬく力をつける探究型学習とキャリア教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> ① 探究型学習の推進による発信力と生涯学習力の育成 ② 総合的な探究の時間における課題探究学習(i-Seeプロジェクト)の充実・発展 ③ 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通したキャリア教育の推進 	<p>○「指導の手引き」、一人一台端末等を活用した円滑な活動展開 △グローバルで未解決の現代的課題に挑む態度の育成</p> <p>○3年間を見据えたi-Seeプロジェクト活動 △探究活動時間のバランス調整 ◎外部機関との連携</p> <p>○推薦型・総合型選抜入試の活用 ○生徒・保護者への進路情報発信 △朝学習計画の再検討</p>	B	<p>◎新しいツールで教育の質と、業務効率をどんどん進めてほしい。“先生になりたい”と思わせる学校経営を。</p> <p>△年内入試の比重が高いが、指導する先生方が大変ではないか。負担ない形で分担しないと、今までのような形での指導に限界がくるだろう。工夫を。</p> <p>○学力の基礎はどんな仕事にも必要。どこに行こうともぜひ米沢に帰ってくる生徒に。先生とのつながりを大切にしてほしい。</p>
4 健康で安全な学校生活の保障	<ol style="list-style-type: none"> ① 健康・安全に関する正しい知識と自己管理能力の育成 ② 「いのち」の教育の推進と教育相談の充実 ③ 教育環境の整備と危機管理・防災体制の確立 	<p>◎保健講話や薬物乱用防止講話、スマホ安全教室の実施 △自転車乗車マナー・交通安全意識の向上</p> <p>◎スクールカウンセラーによる相談の活用 ◎スクールカウンセラーによるメンタルヘルス講話 △思春期における心理的バックアップ体制の構築</p> <p>◎日常の安全点検を通じた危険箇所の迅速な修繕 ○予告なしでの避難訓練の実施 △老朽化に対する大規模な修繕</p>	B	<p>◎「相談しやすさ100%をめざしていく」等、安心できる言葉である。</p> <p>△雪害は目の前の問題、危ない状況はすぐに対応すべき。安全管理徹底をしないと命に関わる。道路の雪対策について等、学校として要請すべき。</p> <p>△トイレ洋式化は喫緊の問題。最優先課題として取り組んでほしい。エアコンが先送りになったことも問題。</p>
5 校外との連携及び働き方改革の推進による活力あふれる学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> ① 国際交流活動、地域貢献・地域づくり活動、校外活動等への積極的参加 ② HP等による情報発信・広報活動の充実と、さくら連絡網等による効率的で確実な連絡 ③ 保護者の理解・協力を仰いだ、教職員の「働き方改革」の推進 	<p>◎地域行事・中部コミセン活動への協力 ○個人でのボランティア参加者の増加 △ボランティア機会の周知</p> <p>◎SNS(Instagram, YouTube)の積極的な活用 ○さくら連絡網による災害時連絡と情報発信</p> <p>◎留守番電話の活用とさくら連絡網による時間外連絡受付</p>	A	<p>△地域との関りが低い。生徒も先生方も地域に出ていってはどうか。行動したことを言語化し、成長につなげてほしい。</p> <p>◎情報発信を生徒にも投げかけ、中学生向けの紹介がよかった。現在の活気は生徒たちが働きかけた成果だ。これを続けることで多様な生徒が増えていく。</p> <p>○ICTを活用すると、プリントがこないという苦情がなくなる。すべてメールで配信するなど、もっと進めていくべき。</p>

総合評価

◎スクール・ミッションに基づいた教育活動が着実に実を結び、学校評価アンケートにおける生徒の学校生活充実度が96%、3年次の学習主体性が94%に達するなど、教育成果が現れた一年であった。

○特に本校独自の探究学習「i-Seeプロジェクト」は生徒の97%がその意義を理解しており、ICT (Google Classroomや生成AI研修) を活用した「学びの個別最適化」が進んでいる。

◎授業研究週間の在り方を再検討し、教職員の相互参観を推進する研修を実施、授業への還元をはかり、魅力ある学校教育の推進に努めた。

◎オープンスクールはここ数年で最高の参加者数となり、体験型の講座は中学生に好評であった。前期(特色)選抜の先行実施の実績を踏まえ、積極的に中学校訪問や本校での説明会を開催し、中学生が不安なく実力を発揮できるよう努力した。

△「学校と家庭の認識の乖離」が明確な課題として浮かび上がった。進路指導や災害時の備えについて、生徒の理解・満足度は極めて高いものの、保護者の評価は60%~70%台に留まっている。学校内での「熱量」が家庭まで十分に届いていない構造的課題を示唆しており、より具体的な活動実態の発信が求められる。

△生活指導面では、生徒の満足度が高い反面、教職員側の「組織としての統一感」に課題を感じている層もある。生徒が高校生活の中で社会規範を身につけながらも、ルールやマナーの意味について考え行動できるような取り組みを模索する時期にあるといえる。全職員が共通認識を持って生徒の「主体的行動」を支える体制を継続していく必要がある。

△施設設備の老朽化については、安全点検を徹底しつつ、教育環境の保全に向けて粘り強く要望を続けていく方針である。

△社会や地域に貢献する活動に対し生徒および保護者の肯定的な認識は著しく低く、既存の活動の周知不足や意義付けの弱さが課題となっている。今後は「行動」を「学び」や「自己認識」へと繋げ、“地域を支え社会をリードする人材の育成”という本校のスクールミッションのより高い次元での達成を目指していく。

○全公立校での前後期入試・WEB出願の導入による受検生の意識の変化をとらえながら、今後も本校志願者を増やす工夫を継続していく。

【生徒評価】

～R5年度 「i-Seeプロジェクトの意義を十分理解し、積極的に取り組んでいる。」
R6年度～ 「i-Seeプロジェクトに、主体的かつ協働的に取り組んでいる。」

